



令和2年度病害虫発生予察注意報第2号

令和2年9月11日
埼玉県病害虫防除所

県内のシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年より多く、ネギほ場では幼虫の食害が確認されています。

本虫は野菜、花きを中心として60種類以上の作物を加害します。

ネギでは、ふ化幼虫が集団で葉の先端や折れた部分から葉身内へ食入し、農薬が届き難くなるので、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

作物名 ネギ

病害虫名 シロイチモジヨトウ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病害虫防除所が設置したシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、8月上旬から増加しており、県北部（深谷市）、県東部（越谷市）で多い傾向が続いている。（図1，図2）
- (2) 9月10日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並と予想されており、本害虫の発生に好適な条件が継続することが見込まれるため、多発生が予測される。
- (3) ネギほ場やその他の露地野菜ほ場で幼虫の食害が確認されており、今後、被害拡大が懸念される。

3 防除対策等

- (1) 早期発見に努め、卵塊やふ化直後の1～2齢幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
- (2) 幼虫が作物内に食入してしまうと薬剤効果が低下するので、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (3) 老齢幼虫に対しては薬剤効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける。（表）

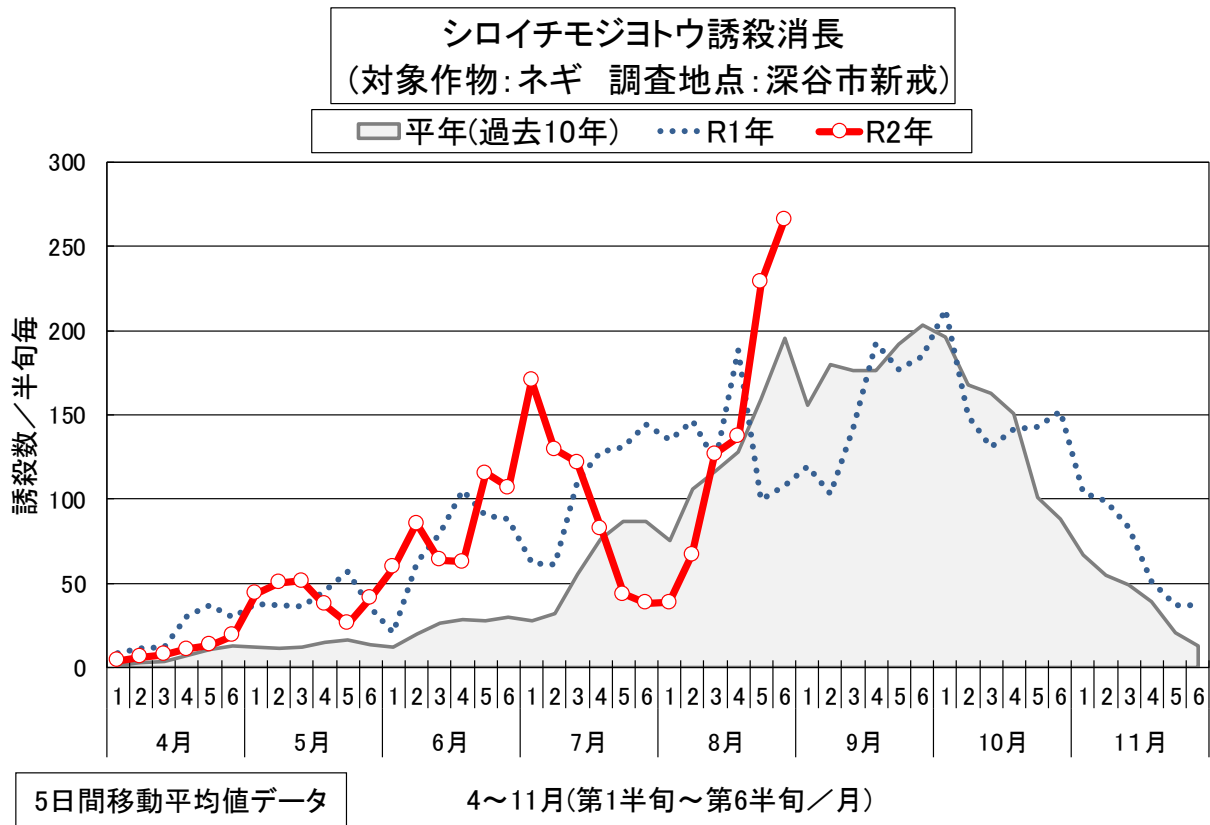


図1 シロイチモジヨトウ誘殺消長 (対象作物:ネギ 調査地点:深谷市新戒)

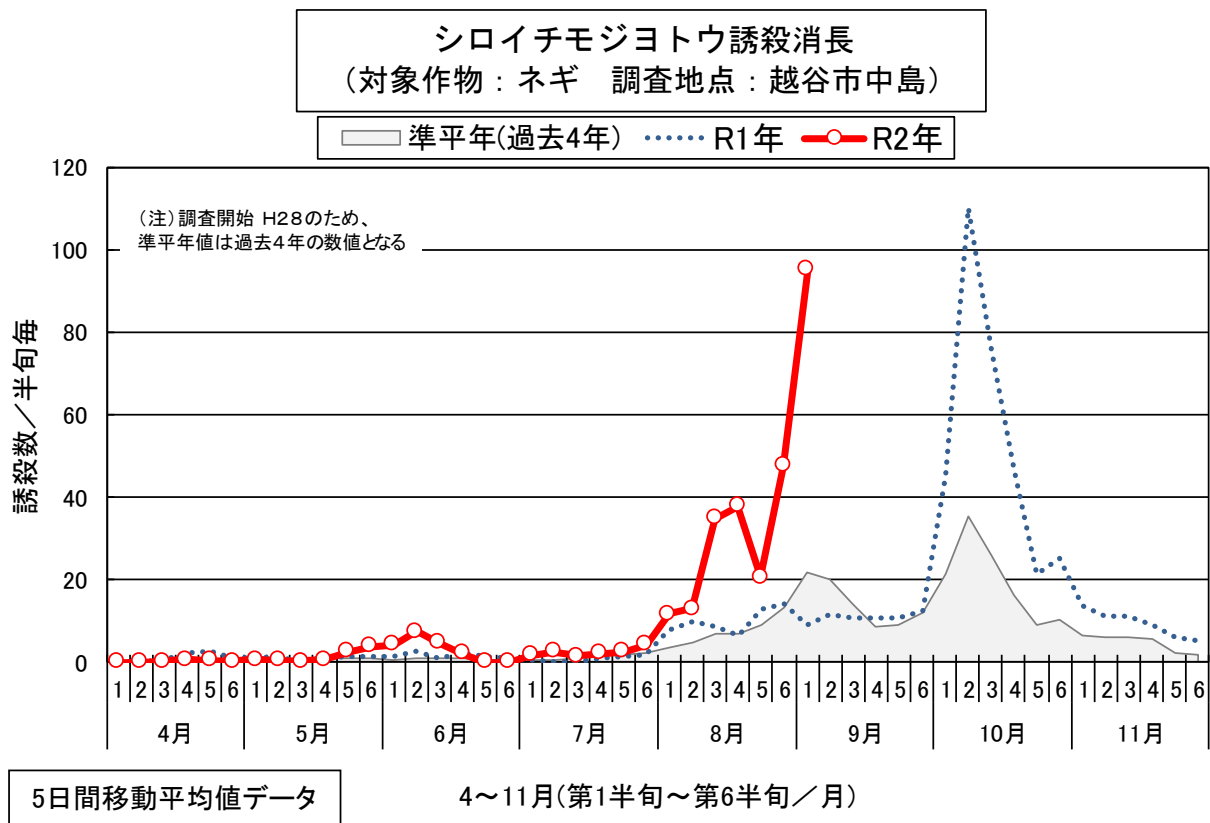


図2 シロイチモジヨトウ誘殺消長 (対象作物:ネギ 調査地点:越谷市中島)



写真1 シロイチモジヨトウ若齢幼虫
(体長約2mm)



写真2 シロイチモジヨトウによる
被害葉

表 ネギのシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
ベリマークSC	2 8	収穫7日前まで (株元灌注)	1
カスケード乳剤	1 5	収穫14日前まで	3
ディアナSC	5	収穫前日まで	2
トルネードエースDF	2 2 A	収穫14日前まで	2
グレーシア乳剤	3 0	収穫7日前まで	2
プレオフロアブル	UN	収穫3日前まで	4

(使用基準は令和2年9月10日現在)

4 I R A Cコード及びF R A Cコードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、I R A C (世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会) 及びF R A C (同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会) の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/lab0/mechanism.html>

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html>

5 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661